

5年生の時は、授業中は席に座ってはいましたが、国語や算数の授業でも、自分のお気に入りの社会科の資料集を出して見ていました。（テストをすると、ほとんど満点近くの点数をとります。）ただ、公害で汚れた海の写真が出ているページは、マジックで塗りつぶしたり、はさみで切ってしまうたりと、周りの子がびっくりするような行動をしていました。担任の先生が、「こんな事をしたらだめでしょう。資料集を粗末にはいけません。はさみで切るなんて、危ないでしょう。」と注意すると、泣いて教室を飛び出したこともありました。後から分かったことですが、美しい海を汚す公害は、許せない悪であるから、その気持ちをマジックで塗りつぶしたり、はさみで切ったりする行動で表していたのです。

Aさんのお気に入りのテレビ番組は、「秘密のケンミンSHOW 極」でした。Aさんは、岐阜県のことを褒められるとごきげんですが、岐阜県のことを批判されたりよくないとと言われることは大嫌いです。もちろん、自分の住んでいる市についても、よく言われるととてもごきげんですが、悪く言われると怒ってしまいます。自分の住んでいる市のよいところ、岐阜県のよいところを言わせたら、無茶苦茶たくさん言えるでしょう。

みなさんは、こんなAさんのことを、どう思われますか。授業は無視して、自分のお気に入りの本を読んでいます。テストはほぼ満点をとります。友達には、思ったことをストレートに言いすぎるので、周りの子は傷つける上に、自分が責められるとすぐに泣きます。賢い子ですが、本当に面倒くさい手がかかる子です。

でも、誰よりも自分の住んでいる市、住んでいる岐阜県のこと大好きで、心が驚くほど純粋です。とても賢い子なので、その頭脳を郷土岐阜のために使ってくれれば、きっとすばらしいアイデアを出してくれる大人になってくれるのではないのでしょうか。

ただ、以前、小島慶子さんの話を書きましたが、Aさんも同じように、周りからは変わった子だと思われるしていました。もちろん、周りの子は大変だったと思います。しかし、周りの子の温かい支えがあったおかげで、この子は毎日登校することができました。（実は、5年生の時は、登校したくない時も多かったと母親から聞きました。）

大切なのは、「みんなと同じように授業を受けていないからだめだ。」「本に落書きをするからだめだ。」「人を傷つけることを言うからだめだ。」と、叱ってばかりになり、この子の自尊心をずたずたに傷つけないようにすることです。Aさんのいいところを見てあげて、褒めるようにしてあげましょう。自己有用感が高くなり、安心して自分のよいところを出すことができるようになると思います。もう一つ。小島さんと同じように、どうすると周りの人と良い関係を築けるかを一つ一つ具体的に教えてあげることです。周りの友達や大人の接し方によっては、将来の岐阜県の宝になるかもしれません。